

やまがた雪の安全マニュアル

～ 雪の事故から子どもたちを守るために ～

外は一面の銀世界。雪が降り積もった真っ白な景色に日が射せば、誰もがその美しさに目を奪われてしまいます。子どもたちは大喜びで外に飛び出し、冷たさを忘れて一心に雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりして遊んでいます。

しかし、雪国山形の光景は、このような美しさや楽しさだけではありません。雪には様々な危険が潜んでおり、山形県でも、雪によって毎年多数の死傷者や建物被害等が出ているのです。

軽くてフワフワな雪も、気温の変化や人や自動車の往来などによってカチカチ、ツルツルの氷に変化し、様々な事故や災害発生の原因にもなります。

子どもたちに雪のこわさもしっかり教えて、みんなで冬の山形を楽しく過ごしましょう。



外歩きの際、特に気をつけたいところ



1 横断歩道

- 人や自動車の往来が頻繁な横断歩道では、雪が踏み固められ、自動車の熱によって雪の表面が融けやすくなっています。停車中の自動車が発進する際には、回転するタイヤとの摩擦で雪道が磨かれ、路面がツルツルになっていることが多いので、注意してわたりましょう。
- また、横断歩道の白線部分には薄い氷膜が出来やすく滑ることがあるので、白線の上を歩くときも注意が必要です。
- 降雪が続くと、路肩に雪が積み上げられて見通しが悪くなります。自動車の運転手にとっても、子どもたちの存在が確認しにくくなるので、道路を横断するときは左右の安全確認を徹底し、絶対に飛び出したりしないように気をつけましょう。

2 歩道

- 駐車場の出入口など、車が出入りする部分の歩道は、雪が踏まれて固くなりやすく、タイヤとの摩擦で磨かれて滑りやすくなっていることもあるので、注意が必要です。
- さらに、車道側に傾斜が設けられているところも多く、そうしたところでは凍結してツルツルになっていることがあるので、気をつけて歩きましょう。

3 歩道のない道路

- 歩道のない道路を歩く時は、転倒や車との接触事故を防ぐため、路上や路上近くでは、絶対にふざけ合ったりしてはいけません。
- 自動車が停止するまでは時間がかかることを理解させて、車が近づいてきたら道端に寄ったり、立ち止まったりして危険を未然に防ぐことも大切です。
- 建物や樹木の側を歩くときは、路面だけでなく頭上にも注意を払い、屋根や枝からの落雪に巻き込まれないように気をつけましょう。特に、気温が高くなる午後は、雪も緩んで落下しやすくなるので注意が必要です。
- また、除雪車両等に巻き込まれることのないよう、除排雪作業をしている車両等には絶対に近寄ってはいけません。



4 バス停、タクシー乗り場付近

- バスの停留所やタクシー乗り場は、雪が踏み固められて滑りやすくなっていることがあります。転倒しないように、乗り降りは慎重に行いましょう。

5 その他の場所

- 小川や池等に張った氷上は、氷が割れて転落する危険性が高いので、これらの場所では絶対に遊んではいけません。
- 積雪の多い地域では、道路の側に排雪のための「流雪溝」が設置されているところがあります。排雪作業のために蓋を開けていることがあるので、十分注意して歩きましょう。



雪道の歩きかた



- 急いでいたりすると、足下への注意力が散漫になって転倒しやすくなり、転倒したときの衝撃も大きくなりやすいので、雪道では特に余裕をもって、常に急がず焦らずに歩きましょう。
- 両手に荷物を持っていたり、ポケットに手を突っ込んでいたりすると、滑ってバランスを崩したときなど、とっさに身体を守ることができないため、大きな怪我につながる可能性があります。できるだけ両手を空けておき、万一転倒した際に、すぐに身を守ることができるようにしておくことが大切です。
- 雪のない道と同じような歩き方をしたのでは、きっと転倒してしまいます。ツルツルの路面では、次のような転倒しにくい歩き方を心がけましょう。

1 歩幅は小さく

- 大きな歩幅で歩けば、足を高く上げる必要があるため、重心移動（体の揺れ）も大きくなって転倒しやすくなります。滑りそうと思ったら、基本的に歩幅を小さくして、慎重に歩きましょう。



2 足の裏全体を使って

- 雪道を歩くときは、心持ち重心を前にして、足の裏全体を路面につける感覚で歩きましょう。

3 急がず焦らず

- 冬はいつもより移動に時間がかかることを理解し、心に余裕をもって、「急がず、焦らず」に歩くことが大切です。
- 「余裕をもって歩く」ことによって、滑りそうな所を見分けながら歩くことができます。
- 急いでいないときでも、友達とのおしゃべりなどに夢中になっていると、路面に対する注意力が薄れ、転倒しやすくなるので注意しましょう。



子どもの服装



- 長靴などの雪道用の靴以外の靴は滑りやすく、転倒する確率も高くなります。
- 防寒を怠ると、寒さで身体がこわばって動きも鈍ってしまいます。万一転んで濡れたりしても大丈夫なように、スキーウェアのようなクッション性の高い衣服に、ニットの帽子、手袋などで雪と寒さに備えます。
- また、幼い子どもを「抱っこ」したり、「おんぶ」したりするときは、上着とズボン、ズボンと靴下の間から素肌が出ないように気をつけましょう。

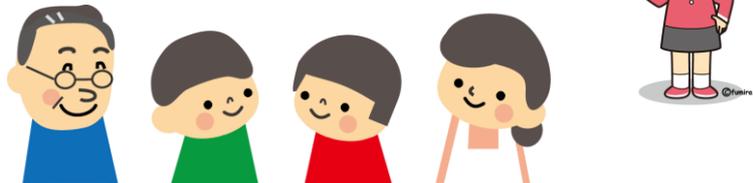


保育所等の施設における安全対策



- 玄関など子どもたちが頻繁に出入りする場所には、必要に応じて凍結防止剤を散布するなどして転倒の防止に努めます。
- 非常口付近や避難路の除雪を徹底し、非常時の避難経路を確保します。
- 園舎等の屋根雪落下による事故を防止するため、巡回等による安全点検を徹底し、危険な場所には軒下にロープを張るなどして、子どもたちが立ち入らないようにします。
- 送迎の際に走って転倒したり、自動車事故に遭ったりしないように、毎日繰り返し言い聞かせます。
- 保護者会や「お便り」などを活用して、家庭でも雪による事故に遭わないよう話し合ってもらいましょう。

令和2年11月



山形県子育て若者応援部子育て支援課
山形県山形市松波二丁目8番1号
電話 023 (630) 3073・2278

この資料作成にあたっては、「札幌発！冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイト」（ウインターライフ推進協議会）を参考にさせていただきました。